

令和7年度 学校関係者評価

中津市立下郷小学校

- 1 学校の教育目標 「気づき 考え 行動する」
- 2 育成を目指す資質・能力 「言語能力の充実と自己理解・自己有用感の育成」
- 3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く習得知識・技能	①算数の「単元テスト」で70%以上達成の児童が80%以上。 ②児童アンケートの「授業が分かる」の項目で、肯定的回答80%以上。 『長期』『中津市標準学力調査』の平均正答率が全国値以上。	学校	授業の中で「基礎的・基本的内容の定着を図る時間」を確保。	○授業者は、算数科の授業では毎時間、「キーワードを使って問題解決の見通しをもつ場」を設定する。 ○授業者は、算数科の授業では毎時間、「視点を明確にした振り返り」を書かせる。	A	○子どもの姿からスタートしている「児童主体の授業の進め方」は、今の時代を鑑みてもとても良い。 ○知識を得るだけでなく、アウトプットさせることで、より学習内容の定着が期待できる。
		家庭	あいさつをしたり、学校での出来事を話したりする時間を持つ。	○保護者は1日1回以上、「生活リズムに関わる言葉かけ」を行う。	A	○「家で勉強の話をする子ども」の「学習時間は長く」「学力も高い傾向にある」というデータは参考になった。HPや学校だより等で話題の提供をして欲しい。
		地域	地域の子どもは地域で育てるという考えを広げ、実践する。	○地域は、児童に会った時、温かい言葉かけをする。	A	○児童の方から率先して挨拶してくれることが増えた。声が出せない児童も会釈ができるのでとても良い。これからも地域をあげて子ども育てに協力したい。
思考力・判断力・表現力の育成	③児童アンケートの「授業の中で、自分の考え方や思ったことを発表することができる」の項目で、肯定的回答80%以上。 『長期』校外活動など、学校の枠を超えた活動で、自分の意見を述べることができる。	学校	授業を中心に集会でも「互いの考え方を交流する」場を設定	○授業者は、算数科の授業では毎時間、「具体物・絵・図・表・言葉・式」のいすれかを示しながら、ペアやグループで考え方を交流する場を設定する。	B	○多くのクラスで子ども同士が交流する様子が伺えた。少人数ということもあり、声の大きさが気になったが、大きな声で発表する場も設定していると聞き、安心した。
		家庭	「読書活動」の推進	○保護者は、学校から毎月配信される「学校図書館だより」を活用する等して、保護者文化部が推進する「家読の日」の取組みを行う。	B	○とても大切な取り組みであり、今後も継続してもらいたい。 △本は借りてくるが読んでいる姿をあまり見ない。 ○「読む速さをあげること」「様々なジャンルの本に触れることが大切な理由が理解できた。
		地域	「読み聞かせ活動」の支援	○地域ボランティアは、毎週水曜日の朝の時間を活用して読み聞かせを行う。	B	○読み聞かせボランティアが少ないと聞いたので、早速、声かけをして募りたい。「高学年にも読み聞かせがほしい」という学校の要望に協力したい。
学びに向き合う力の涵養・人間性	④児童アンケートの「困っている人に気づき、声をかけたり手伝ったりした」の項目で、肯定的回答80%以上。 ⑤児童アンケートの「家や学校でみんなのために役立つことができた」の項目で、肯定的回答80%以上。	学校	自己有用感を育成する取組	○担任は、自問清掃で自他の気づきを記録させ、毎月1回の自問清掃集会で振り返りをさせる。 ○担任は、人間関係づくりプログラムの一環として「構成的グループエンカウンター」を週1回、実践する。	A	○互いに認め合う場の機会を作っていてれば、更に子ども達も元気になると思う。 ○落ち着いて自分の姿を振り返ることは、自己肯定感を高めることにもなると思うので、継続してもらいたい。
		家庭	「一人一仕事」の取り組みを進める	○保護者と子どもは、「一人一仕事」に取組み、懇談の場で意見交流をする。	A	○家に帰れば自分から洗濯物をたたんでくれる。 ○この取り組みがあるおかげで、「家族の一員として自分の仕事を果たす」という責任感が育って良い。
		地域	学校と連携した安全・安心体制の支援及び体験活動の推進	○学校支援員（CS委員含む）は、減災・防災教育の一環として、学校行事への参加を通じて、日頃から子どもや保護者との繋がりを築く。	A	○親子合同の引き渡し訓練は、とても良い。水害が多い地域であり、違った形で親子合同の研修会を開いてくれるのも心強い。
働き方改革の推進	⑥在校超過勤務時間40時間以内を100%。 ⑦校務処理に充てる時間の確保のため毎水曜日の会議は1時間以内で終える	学校	校務作業に充てる時間の確保	○教頭は、「年間会議・研修計画の作成」や「ICT端末の活用」により、効率的に会議運営し、職員が校務に充てる時間を毎週確保する。	A	○先生方の働き方改革が進むよう、取り組みを進めてほしい。
		家庭	働き方改革に関する学校業務の共通理解と協力	○保護者は、欠席連絡は連絡システム「すぐる」、17:30以降の問合わせ等は留守番電話機能を活用する。	A	○今後も、できる形で協力していきたい。運営協議会の案内も、留守にしていることが多いので、今回のように「すぐる」配信でよい。
		地域		○学校運営協議会は、学校の取組を共有し、運動場の草刈りや勤労生産的行事の支援など連携可能な取組を提案・実施する。	A	○先生方の働きぶりに感謝している。先生方の人数が少ない中でも熱心に指導にあたってくれているので、できる限り協力したい。